



劇団もれる
いったりきたり

宇宙ストレッチ ガラパゴス

男が2人、ダラダラしている。

- 1 「あのさー、ガラパゴス諸島に行きたいんだよねー」
2 「ん？おお、、、え、なんで？」
1 「んー？亀に乗りたい。」
2 「え、ガラパゴスって亀に乗れるの？」
1 「あ？ガラパゴスついたら亀だろ。つーかあれだ、もうガラパゴスが亀。」
2 「ガラパゴスそのものが？」
1 「うん、ガラパゴス住民はみんな、あれ、亀の背中で生活してるから。島についたと思ったらもう亀に乗れてんの。」
2 「え、なにそれ、マジか、お前、マジか。」
1 「ロマンがあるよね。」
2 「そんなん、いつ亀が死んで沈むかわからないだろ。怖いよ。ないわ、ロマン」
1 「死なねえだろ、亀だぞ。」
2 「そうだなー、、、、そうかな？」
1 「亀は万年つーだろが」
2 「言うけどさ、、、」
1 「昔々浦島は、助けた亀に連れ去られ〜♪」
2 「それは違うぞ！子供泣くぞ！」
1 「え、何が？」
2 「連れられて〜♪だから！」
1 「...ほお〜ん」
2 「なんだその態度！いや、さっきのも違うからな！」
1 「あ？」
2 「ガラパゴスは亀じゃねーよ！」
1 「...うん。」
2 「え？」
1 「え？...いや、例えばの話よ。そうだったらいいのになの話よ。ガラパゴスついたらぞうわー亀だーガラパゴス。で、亀に乗ろうとしたら、もう乗ってる一みたいな。あ、意外と、そんな、ヌルヌルしてないすね、甲羅、みたいな。例えばね、そうだったら面白いよねというご提案。」
2 「疲れてるの？」
1 「え、面白くない？」
2 「お前の頭がファンタジーすぎて入り込めない」
1 「そこは歩み寄る優しさを見せなきゃ」
2 「実際は亀じゃないでしょ？」
1 「そういうすぐに実際はとか、現実はとかいう人やだあ」
2 「えっいや、それズリいよお」
1 「おなかすいた。」
2 「、、、うん、、、ごはんでも食べに行こうか、、、」
1 「...スッポン鍋って食べたことある？」
2 「(引き気味)いや、ないけど、、、食べたいの？」
1 「こう、酒の話してると、あー、なんだか話ししてたら飲みたくなっちゃいましたねー、どうすか、1杯？ってなるじゃん。」
2 「いや、いや笑。将来ガラパゴスになるかも知れないんだぞ！笑。可哀想だろコラ！笑。」
1 「いや、それは島用のやつだから。食用とは違うやつ。」
2 「え？」
1 「いやだから、島用と、食用があるの。」
2 「ないよ！どこで判断するするんだよ、そんなかわいそうな！」
1 「牛だって乳用と肉用があるじゃん。それぞれの素質に見合ったライフスタイルを提供していくんだよ。」
2 「そんな身勝手な話しがまかり通るわけないだろ！素質ないやつは食用だなんて、、、」
1 「スッポン食いてえなー」
2 「数分前のお前に合わせてやりたいよ、、、」
1 「てかさ、お前何か探してなかった？」

2 「え？いや、、、いちにーさんしー(探しものをする、腿あたりでストレッチになる)最近何してもストレッチになるんだよね。」

1 「ほう〜ん」

2 「待って、、、ちょっと、キタキタキタ、、、宇宙、うちゅう、うちゅう、うちゅう、、、」

1 「...」

2 「なんか、スゲー伸びた」

1 「...おう。」

2 「いまだかつてない伸びだこれ」

1 「宇宙ってなに？」

2 「え？」

1 「いや、今、宇宙つったじゃん」

2 「いや、言っていないよ。いつだよ。」

1 「なんか、いまだかつてなく伸びてる時」

2 「いやいやいやいや、、、あつ、宇宙ーうちゅうー」

2 「言ったな！」

1 「言ったよ。」

2 「いや、でもこれは致し方ない。だって実際感じたもん。宇宙。」

1 「感じたの、宇宙。」

2 「いや、こんなとこ、伸ばしたことない、いや、えっ、こんなところ、こんなに伸ばしているの？おっおっ！まだ伸びる伸びる！！あ、人間の限界が超え、、、宇宙！！！！みたいな。」

1 「...そうか。」

2 「こんな気持ち初めてだ。人として成長して大きくなった気もするけど、ちっぽけな存在だと思知らされたような。清々しい気持ちだ。ストレッチ、していて良かった。ありがとうストレッチ、ありがとう、宇宙。ありがとう、お前。」

1 「...(その場を去ろうとする)」

2 「つておーい！（追いかけようとするが、足が伸びてストレッチになる）いち、にー、さん、しー！いや、待ちなさい、（またストレッチ）にー、にー、さん、しー！なあ！お前にも、この感動を味わって欲しいんだ。」

1 「ちょっと落ち着いてごはん食べに行こうぜ。」

2 「ちゃんとストレッチしてから行こうぜ。」

1 「うん、今度な。」

2 「いやいやいやいや！ダメだって！今やらないと！」

1 「えー、」

2 「ご飯食べて胃が痛い痛い痛いつてなるよ！だってストレッチしてないから！」

1 「え、ストレッチって胃も伸びるの？」

2 「伸びるよ！五臓六腑が伸びるよ！お前、さっきストレッチしてたよな？え、どういう心境でストレッチしてたの？」

1 「え、いや、ふつーになんか、流れ？で。」

2 「ふつーに？流れで？えっ、ちゃんと入信してやってる？」

1 「入信？」

2 「入信しないと危ないだろ。」

1 「さっきからお前のストレッチには予期せぬ単語が出てくるな。」

2 「ストレッチの力をちゃんと信じてあげて、崇めながらやらないと、過信でやると怪我するぞ、最悪死に至る。」

1 「まじかよ、」

2 「でもな、ちゃんと入信すれば、豊かな人生が待ってるから。」

1 「それ、なんかあの、大丈夫なやつ？」

2 「まーまーまーまー、お前の気持ちもわかるよ。とりあえず入信しよ、そこからどう自分で折り合いをつけるか、だから。」

1 「はあ、はい。」

2 「それからストレッチの旅が始まるから、一步一步進んでいこう。安心しろよ。俺らがついてるから。」

1 「じゃあ、あの、とりあえず、入信するんで、昼食ベに行つていいすか。」

2 「だめだよ！お前何にも分かってない！え、お前健康に興味ないの？」

1 「え、いや人並みにはありますけれども。」

2 「私達に求められているのは健康的な美よ！」

1 「.....スッポンってコラーゲン抱負らしいよ。」

2 「ビタミン、ミネラル、鉄分、カルシウム、コエンザイム、コラーゲン！これ全部ストレッチの仲間！」

- 1 「わお」
- 2 「ビリーズブートキャンプ！ライザップ！タニタ食堂！ワンダコア～♪これも全部ストレッチの仲間！」
- 1 「oh…」
- 2 「あらゆる健康的要素が詰まった、それがストレッチ！（ストレッチになる）いち、に一、、ストレッチするまで飯なんか食べないからな！」
- 1 「新しい形の虐待だよな。」
- 2 「これは友としてだな、心を鬼にしてるんだよ。」
- 1 「じゃああの、なんか、こんな感じでいいすか(適当にストレッチ)」
- 2 「おい！とりあえず本置けよ！」
- 1 「あ、はい、すみません。」
- 2 「ハイハイハイハイ！」
- 1 「はい(適当にストレッチ)」
- 2 「なんだその適当なストレッチは！そんなんじゃ、宇宙、いけないよ！」
- 1 「はあ。」
- 2 「たっちゃん、私を宇宙に連れてって。」
- 1 「難易度が上がったなあ。」
- 2 「お前やっぱりまだ半信半疑なんだろ。みてろ。俺今から、こっち(右手)だけ、伸ばすからな。」
- 1 「え、きもちわるい。」
- 2 「宇宙！！ほら、ストレッチしたほうとしてないほうで腕の長さが全然違う！」
- 1 「…わー、すごー、じゃ」
- 2 「おいおいおいおい！！！行くな！！伸ばせよ。いちに一、、（追いかけるがストレッチになる。足を叩いてストレッチをリセットしながら追いかける。行こうとしてる腕を掴む）ほら、これもストレッチだ。なあ？気持ちいいだろ？最高だろ？感じるだろ？エネルギーを。」
- 1 「今のお前は、第三者の目に晒されているという感覚を持った方がいいよ。」
- 2 「ヘイ、ヘイ、ヘーイ、！やりますよ！」
- 1 「えー、じゃあ、はい、あの、どんな感じで？」
- 2 「お前さっきストレッチしてただろ、あれでいいんだよ。何でもいいんだよ。人の数だけストレッチはあるんだよ。ただね、そのストレッチを信じてやればね、それでいいんだよ。」
- 1 「はあ、じゃあ、まあ、こんな感じで。(だらだらストレッチをはじめる)…うわー、なんか、超信じてるわー、ストレッチ、超信じてるー、めっちゃ、すげえ伸びるわー」
- 2 「いいじゃねえかよ。いいストレッチ持ってんじゃねえかよ。」
- 1 「わー、伸びたわー、右足だけ伸びたわー(立ち上がって見せる)」
- 2 「えっ、おっ、えっ、浮いてるじゃねえかよ。おいおいおい、お前、やっぱり只者じゃねえな。あつ、そのストレッチと、俺の宇宙腕ストレッチとを合わせると、もう、超、伸びるじゃん！本当に宇宙行っちゃうよ！おいおいおいおい、テンション上がってきたよ、おい！なあ、くれよ、その、ストレッチ。俺に。」
- 1 「え、どうぞ。」
- 2 「(見よう見まねでやる)あれ、伸びないよ。足、伸びないよ！あれ？」
- 1 「信じる力が足りないじゃねえの？」
- 2 「こ、このやろう、、、いや、これ以上は無理だって、、、」
- 1 「いや、宇宙を信じろよ、ここをもっとこうやって、」
- 2 「えっえっ、あつ、だめだって、あーあーあいや！」
- 1 「あ、中華たべたい」

暗転

おしまい

